

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年2月12日 (2010.2.12)

【公表番号】特表2009-521477(P2009-521477A)

【公表日】平成21年6月4日 (2009.6.4)

【年通号数】公開・登録公報2009-022

【出願番号】特願2008-547617(P2008-547617)

【国際特許分類】

A 0 1 N 53/06 (2006.01)

A 0 1 P 7/04 (2006.01)

A 0 1 N 53/08 (2006.01)

A 0 1 N 25/04 (2006.01)

【F I】

A 0 1 N 53/00 5 0 6 Z

A 0 1 P 7/04

A 0 1 N 53/00 5 0 8 C

A 0 1 N 25/04 1 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成21年12月14日 (2009.12.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(a) ビフェントリン、

(b) 強力シベルメトリン、

(c) 1 つ以上の芳香族または脂肪族の溶媒、

(d) 酸、

(e) 溶媒により十分に精製された軽質および重質のパラフィン系石油、

(f) (i) アルキルベンゼンスルホネート塩、(i i) エトキシ化ひまし油および (i i i) ポリエチレングリコール脂肪酸エステルまたはエトキシ化脂肪酸からなる界面活性剤ブレンド

からなることを特徴とする殺虫組成物。

【請求項 2】

強力シベルメトリンが、アルファ - シベルメトリン、ベータ - シベルメトリン、シータ - シベルメトリンおよびゼータ - シベルメトリンからなる群から選ばれる請求項 1 の殺虫組成物。

【請求項 3】

昆虫が存在するかまたは存在することが予想される場所に請求項 1 の組成物を適用することからなることを特徴とする昆虫をコントロールする方法。

【請求項 4】

不凍剤、消泡剤および殺生物剤から選ばれる少なくとも 1 つの追加の成分をさらに含む請求項 1 の組成物。

【請求項 5】

(a) 1 / 4 から 4 / 1 の比および 0 . 0 5 % から 3 0 % の全濃度で存在するビフェントリンおよびゼータ - シベルメトリン、

(b) 4 0 % から 5 5 % の濃度で存在する芳香族溶媒、
(c) 0 . 0 1 % から 0 . 1 5 % の濃度で存在する酢酸、
(d) 2 0 % から 3 0 % の濃度の十分に溶媒で精製された軽質および重質のパラフィン系石油、
(e) a . 1 . 5 % から 4 . 5 % の濃度のアルキルベンゼンスルホネート塩、 b . 1 . 5 % から 4 . 5 % の濃度のエトキシ化ひまし油、および c . 0 . 1 0 % から 0 . 6 0 % の濃度で存在するポリエチレングリコール脂肪酸エステル
からなり、その際すべての%は全重量に基づく重量%であることを特徴とする殺虫組成物
。

【請求項 6】

(a) ピフェントリン、
(b) 強力シベルメトリン、
(c) 1 つ以上の芳香族溶媒、
(d) 1 つ以上の非イオン性ポリマー状界面活性剤、
(e) 消泡剤、
(f) 殺生物剤、
(g) グリセリンおよび
(h) 水
からなることを特徴とする殺虫組成物。

【請求項 7】

強力シベルメトリンが、アルファ - シベルメトリン、ベータ - シベルメトリン、シータ - シベルメトリンおよびゼータ - シベルメトリンからなる群から選ばれる請求項 6 の殺虫組成物。

【請求項 8】

(a) 1 / 4 から 4 / 1 の比および 0 . 0 5 % から 3 0 % の全濃度で存在するピフェントリンおよびゼータ - シベルメトリン、
(b) 1 2 % から 1 5 % の濃度で存在する芳香族溶媒、
(c) 8 % から 1 2 % の濃度で存在する 1 つ以上の非イオン性ポリマー状界面活性剤、
(d) 0 . 0 0 1 % から 1 . 5 % の濃度で存在する消泡剤、
(e) 0 . 0 0 1 % から 1 . 5 % の濃度で存在する殺生物剤、
(f) 5 % から 1 0 % の濃度で存在するグリセリン、
(g) 4 0 % から 6 0 % の濃度で存在する水
からなり、その際すべての%は全重量に基づく重量%であることを特徴とする殺虫組成物
。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 1】

本発明は、好ましい態様に重点を置いて記述されたが、好ましい態様の変化が使用でき
 そして本発明が本明細書で詳細に記述された以外に実施できることをめざしていることは
 、当業者により理解されるだろう。従って、本発明は、請求の範囲により限定された発明
 の範囲および趣旨内に含まれるすべての改変を含むものである。

本発明を要約して述べる。

1 . (a) ピフェントリン、
(b) 強力シベルメトリン、
(c) 1 つ以上の芳香族または脂肪族の溶媒、
(d) 酸、
(e) 溶媒により十分に精製された軽質および重質のパラフィン系石油、

(f) (i) アルキルベンゼンスルホネート塩、 (i i) エトキシ化ひまし油および (i i i) ポリエチレングリコール脂肪酸エステルまたはエトキシ化脂肪酸からなる界面活性剤ブレンド

からなることを特徴とする殺虫組成物。

2 . 強力シベルメトリンが、アルファ - シベルメトリン、ベータ - シベルメトリン、シータ - シベルメトリンおよびゼータ - シベルメトリンからなる群から選ばれる上記 1 の殺虫組成物。

3 . 強力シベルメトリンが、ゼータ - シベルメトリンである上記 2 の殺虫組成物。

4 . ピフェントリンおよびゼータ - シベルメトリンが、合計した量で、処方物の全重量に基づいて 0 . 0 5 重量 % から 3 0 重量 % で存在する上記 3 の殺虫組成物。

5 . ピフェントリン対ゼータ - シベルメトリンの比が、 1 / 4 から 4 / 1 である上記 4 の殺虫組成物。

6 . 芳香族溶媒が、アルキル化ナフタレン芳香族溶媒およびアルキル化ナフタレンを除いた芳香族溶媒から選ばれる上記 1 の殺虫組成物。

7 . 芳香族溶媒が、処方物の全重量に基づいて 4 0 重量 % から 5 5 重量 % の濃度で存在する上記 6 の殺虫組成物。

8 . アルキルベンゼンスルホネート塩が、分枝鎖ドデシルベンゼンスルホネートカルシウム塩および分枝鎖ドデシルベンゼンスルホネートアミノエチルエタノールアミン塩から選ばれる上記 1 の殺虫組成物。

9 . アルキルベンゼンスルホネート塩が、処方物の全重量に基づいて 1 . 5 重量 % から 4 . 5 重量 % の濃度で存在する上記 8 の殺虫組成物。

1 0 . エトキシ化ひまし油が、 2 0 から 4 0 の E O 数を有するエトキシ化ひまし油から選ばれる上記 8 の殺虫組成物。

1 1 . エトキシ化ひまし油が、処方物の全重量に基づいて 1 . 5 重量 % から 4 . 5 重量 % の濃度で存在する上記 1 0 の殺虫組成物。

1 2 . ポリエチレングリコール脂肪酸エステルが、 3 0 0 から 5 0 0 の平均 M_n を有するポリエチレングリコールモノオレートグリコールから選ばれる上記 1 の殺虫組成物。

1 3 . ポリエチレングリコール脂肪酸エステルが、処方物の全重量に基づいて 0 . 1 0 重量 % から 0 . 6 0 重量 % の濃度で存在する上記 1 2 の殺虫組成物。

1 4 . 溶媒により十分に精製された軽質および重質のパラフィン系石油が、処方物の全重量に基づいて 2 0 重量 % から 3 0 重量 % の濃度で存在する上記 1 の殺虫組成物。

1 5 . 酸が、酢酸および氷酢酸からなる群から選ばれる上記 1 の殺虫組成物。

1 6 . 酸が、処方物の全重量に基づいて 0 . 1 0 重量 % から 0 . 1 5 重量 % の濃度で存在する上記 1 5 の殺虫組成物。

1 7 . 昆虫が存在するかまたは存在することが予想される場所に上記 1 の組成物を適用することからなることを特徴とする昆虫をコントロールする方法。

1 8 . 不凍剤、消泡剤および殺生物剤から選ばれる少なくとも 1 つの追加の成分をさらに含む上記 1 の組成物。

1 9 . (a) 1 / 4 から 4 / 1 の比および 0 . 0 5 % から 3 0 % の全濃度で存在するピフェントリンおよびゼータ - シベルメトリン、

(b) 4 0 % から 5 5 % の濃度で存在する芳香族溶媒、

(c) 0 . 0 1 % から 0 . 1 5 % の濃度で存在する酢酸、

(d) 2 0 % から 3 0 % の濃度の十分に溶媒で精製された軽質および重質のパラフィン系石油、

(e) a . 1 . 5 % から 4 . 5 % の濃度のアルキルベンゼンスルホネート塩、 b . 1 . 5 % から 4 . 5 % の濃度のエトキシ化ひまし油、および c . 0 . 1 0 % から 0 . 6 0 % の濃度で存在するポリエチレングリコール脂肪酸エステル

からなり、その際すべての % は全重量に基づく重量 % であることを特徴とする殺虫組成物。

2 0 . 昆虫が存在するかまたは存在することが予想される場所に上記 1 9 の組成物を適用

することからなることを特徴とする昆虫をコントロールする方法。

21. 不凍剤、消泡剤および殺生物剤から選ばれる少なくとも1つの追加の成分をさらに含む上記19の組成物。

22. (a) ピフェントリン、

(b) 強力シベルメトリン、

(c) 1つ以上の芳香族溶媒、

(d) 1つ以上の非イオン性ポリマー状界面活性剤、

(e) 消泡剤、

(f) 殺生物剤、

(g) グリセリンおよび

(h) 水

からなることを特徴とする殺虫組成物。

23. 強力シベルメトリンが、アルファ-シベルメトリン、ベータ-シベルメトリン、シータ-シベルメトリンおよびゼータ-シベルメトリンからなる群から選ばれる上記22の殺虫組成物。

24. 強力シベルメトリンが、ゼータ-シベルメトリンである上記23の殺虫組成物。

25. ピフェントリンおよびゼータ-シベルメトリンが、処方物の全重量に基づいて0.05重量%から30重量%の合計した量で存在する上記24の殺虫組成物。

26. ピフェントリン対ゼータ-シベルメトリンの比が、1/4から4/1である上記25の殺虫組成物。

27. 芳香族溶媒が、アルキル化ナフタレン芳香族溶媒およびアルキル化ナフタレンを除いた芳香族溶媒から選ばれる上記22の殺虫組成物。

28. 芳香族溶媒が、処方物の全重量に基づいて12重量%から15重量%の濃度で存在する上記27の殺虫組成物。

29. 非イオン性ポリマー状界面活性剤が、アルキッドポリエチレングリコールおよびポリアルキレングリコールエーテルからなる群から選ばれる上記22の殺虫組成物。

30. 非イオン性ポリマー状界面活性剤が、処方物の全重量に基づいて8重量%から12重量%の濃度で存在する上記29の殺虫組成物。

31. 消泡剤が、処方物の全重量に基づいて0.001重量%から1.5重量%の濃度で存在する上記22の殺虫組成物。

32. 殺生物剤が、処方物の全重量に基づいて0.001重量%から1重量%の濃度で存在する上記22の殺虫組成物。

33. グリセリンが、処方物の全重量に基づいて5重量%から10重量%の濃度で存在する上記22の殺虫組成物。

34. 水が、処方物の全重量に基づいて40重量%から60重量%の濃度で存在する上記22の殺虫組成物。

35. 昆虫が存在するかまたは存在することが予想される場所に上記22の組成物を適用することからなることを特徴とする昆虫をコントロールする方法。

36. (a) 1/4から4/1の比および0.05%から30%の全濃度で存在するピフェントリンおよびゼータ-シベルメトリン、

(b) 12%から15%の濃度で存在する芳香族溶媒、

(c) 8%から12%の濃度で存在する1つ以上の非イオン性ポリマー状界面活性剤、

(d) 0.001%から1.5%の濃度で存在する消泡剤、

(e) 0.001%から1.5%の濃度で存在する殺生物剤、

(f) 5%から10%の濃度で存在するグリセリン、

(g) 40%から60%の濃度で存在する水

からなり、その際すべての%は全重量に基づく重量%であることを特徴とする殺虫組成物。

37. 昆虫が存在するかまたは存在することが予想される場所に上記36の組成物を適用することからなることを特徴とする昆虫をコントロールする方法。